

「ナルドの壺献金」に関するアンケート結果のご報告

主のみ名を賛美いたします。

関東教区宣教部では、2020年度をかけて、関東教区内諸教会・伝道所の皆さまに「ナルドの壺献金に関するアンケート」を行なわせていただきました。このアンケートは、関東教区独自の互助制度を支える「ナルドの壺献金」の、献金運動の推進を願ってのアンケートでした。

アンケートでは、まず諸教会・伝道所のナルドの壺献金運動の今について伺い、献金と献金者数の増減とその理由を聞かせていただきました。また、ナルドの壺献金運動の諸教会・伝道所の具体的な取り組み例や、今後のナルドの壺献金の推進のために必要と思われることについても聞かせていただきました。ナルドの壺献金の用いられ方への意見やナルドの壺献金への要望を聞くことによって、皆さまのお考えを知ることができたことも感謝でした。アンケートを通して与えられたご意見を大切に受け止めながら、これからのナルドの壺献金の推進に活かしたいと願っています。

1975年から始まったナルドの壺献金は47年を重ね、今では一年の献金目標額が1,200万円となり、関東教区の多くの教会・伝道所がこの献金運動に加わってくださっています。そして、2022年度は13教会伝・伝道所へ9,414,400円の謝儀互助を行なう予定であり、その他緊急互助や教団教師退職年金互助、退職金互助も予定されるほどになりました。

「ナルドの壺献金」がこのように大きく成長したのは、関東教区の諸教会・伝道所の皆さまのご理解とご協力によるものであり、皆さまの尊い祈りの献金運動に心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

宣教部委員会の願いは、関東教区のすべての教会と伝道所がナルドの壺献金に取り組んでくださることです。すべての教会がナルドの壺献金に取り組み、一人でも多くの方が加わってくださることによって、ナルドの壺献金の年間の目標額を達成したいと願っています。このために、ナルドの壺献金についての説明等が必要でしたら、宣教部委員が希望する教会に伺って説明をいたします。どうかご遠慮なくお申し出ください。

「ナルドの壺献金」は、関東教区の「祈りの連帯の運動」です。

このため、関東教区宣教部では、「お祈りカレンダー」を作成し配布し、週ごとに互いに祈り合って進んで行きたいと願っています。また、2022年度はその祈り合いの際に、その教会のために具体的に祈ることを願って「祈りの課題」発行にも取り組んでいます。

教会が教師を招聘するにあたっての不安に少しでもお伝えしたいとのナルドの壺献金の目的は、単なるお金の支援だけではありません。教会への支援は様々なものがあり、祈りによる支援もありますし、人的な支援もあると思います。このことを覚えつつ、今回のアンケートに「宣教協力」の項目を加えました。「宣教バンク」と仮称してご意見をいただきました。関東教区は広い教区ですのでそこに課題がありますが、地区単位や隣接する地区同士であれば可能性を見出せることでしょうか。今後、宣教部として「宣教バンク」の推進を検討したいと考えています。

最後になりますが、今回のアンケートの回答率は44%でした。アンケートにお答えいただくことで各教会での話し合いが進むことを期待する側面もありますので、次回アンケートを行う際にはより多くの協力をいただければと願っています。ご協力、ありがとうございました。神さまの祝福が皆様にありますようお祈りしています。

2022年7月20日 宣教部委員長 飯塚拓也

ナルドの壺献金に関するアンケート結果(地区別) 追加修正後

項目	詳細内容	新潟	群馬	栃木	茨城	埼玉	教区全体
教会数		24	21	17	21	59	142
回答教会		8	10	9	8	27	62
回答率	%	33	48	53	38	46	44
担当者	います	7	10	8	4	21	50
	いません	1	0	1	4	6	12
担当年数	平均年数	6.6	10.7	11.3	12.8	7.8	9.1
献金額推移	増加	1	1	2	1	5	10
	減少	4	5	6	1	5	21
	横ばい	3	4	1	6	17	31
献金者数推移	増加	0	1	1	2	5	9
	減少	6	3	3	2	3	17
	横ばい	2	6	5	4	19	36
ナルド献金の 使われ方	知っている	6	10	8	8	24	56
	未回答など	2	0	1	0	3	6

教会数は第70回教区総会 議案・報告書より引用
 回答率：142の教会・伝道所（以下教会）に送付し、第1回目で55教会より返信があり、追加で7教会から回答があり結果として合計62教会となった。回答率は1回目より上昇し44%になったが2017年実施時の回答率63%に比較して低い回答率となった。回答締め切りがコロナ禍と重なり、礼拝対応に忙しかったことが主たる要因であろう。地区別に見ると、茨城・新潟が30%代であり、埼玉・群馬が40%代、栃木が53%と高くなっている。

I ナルドの壺献金運動について

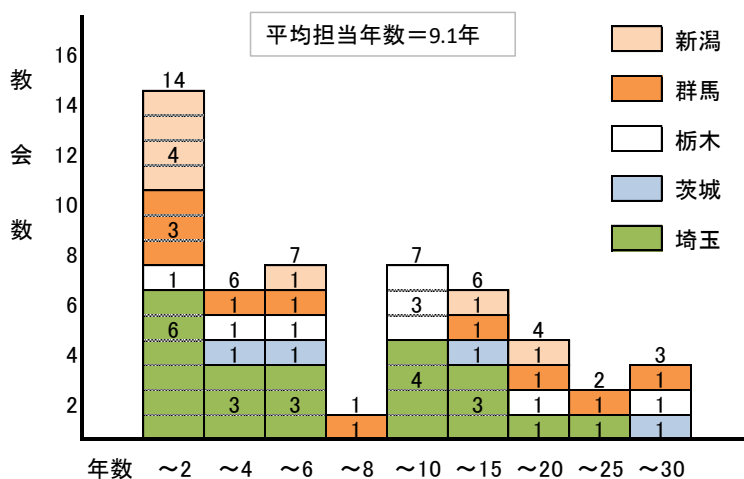
1. 教会・伝道所の中で、ナルドの壺献金担当者がいますか

担当者「います」が81%、「いません」が19%。担当者が選定されている割合は全体で81%（前回2017集計では72%なので、少し上昇）となっている。地区別では、群馬は回答教会のすべてに担当者がいて100%、次が栃木の89%、新潟88%、続いて埼玉の82%。一方茨城は50%となっている。埼玉地区以外は回答数が少ないので、少ない変動が割合として大きく見えやすい傾向にある。全体の傾向を推定するのが難しい一例かもしれない。

2. 担当者がいる場合、何年間携わっているか、おおよその年数を教えてください

ナルド献金担当年数の平均は9.1年と前回調査(8年)よりおよそ1年長くなっている。地区によって大きく異なっており、新潟6.6年、群馬10.7年、栃木11.3年、茨城12.8年、埼玉7.8年、と差がある。担当年数の分布図を見ると、一番多いのが担当年数2年までの14教会となっている

ナルドアンケート 回答 問2 ナルド献金担当年数ヒストグラム



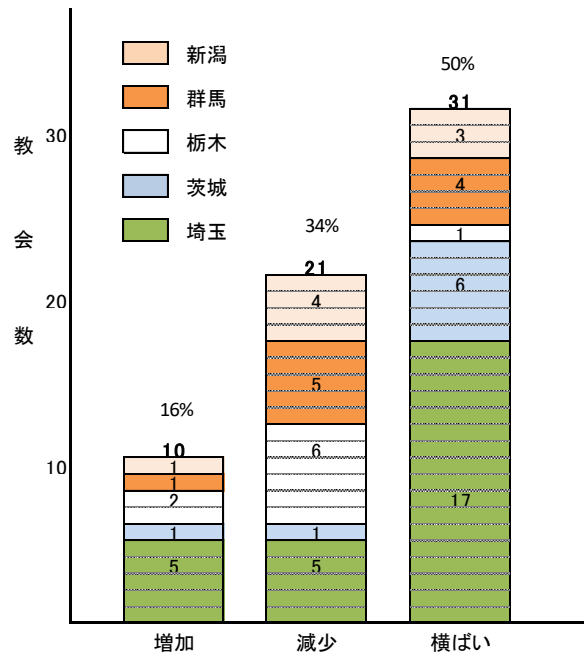
る。これはナルド献金が始まってから 30 有余年経過している中で、1、2 年で担当者が交代している教会が多いことを意味しているものの、全体を眺めると 4 年から 20 年まで広範囲に分布している。ナルド担当年数の長い教会が結果としてナルド献金が相対的に高い傾向がある事も分かった。

3. この5年間で献金額は増えていますか、それとも減っていますか。

献金額が増加したのは 10 教会・16%で、減少が 21 教会・34%、横ばいが 31 教会・50%。

近年の傾向として横ばいの教会が最大数だが、増加よりも減少が多くなり、結果として全体として減少傾向と思わせる表現となっている。しかし、ナルド献金額の直近 8 年間のデータを見るとおおよそ 1200 万円を維持していて、決して右肩下がり減少傾向ではない。減少教会は増加教会のおよそ倍だが、それでも増加教会は数こそ少ないながら全地区で見られる。

ナルドアンケート回答 問3 献金額推移



4. 献金額の変化の理由をお知らせください。

新潟地区

減少の理由

- * ①礼拝出席者の減少、②ひとり当たりの献金額の減少、③それぞれの家庭の経済的事情、④高齢者の増加

* 献金者の減少（生活環境の変化、高齢化、経済力の低下）

* 献金者の減少だと思います

横ばい・増加の理由

* 多額に献金する会員の存在

* 献金する人数は減っていますが横ばいは遠くに住む若い姉妹が献金してくださっていることも大きな要因です

群馬地区

* 献金（個々人）の額を増やした方が多少おられます

* 献金者の減少（10名→8名）と金額の変化

* 基金が創設される位ならナルドが十分らしいので、少し減らしても大丈夫なのではないかと考える信徒が何人かいた。

* 自教会の財政が大変なので、外部献金の一部を月定献金減少の抑制にまわしたい

* 献金する人の増減（死亡や受洗や転入会）

* 高齢化に伴う礼拝出席・収入の減少

* 積極的な依頼をしていない

* 教会員数（礼拝出席者）の減少

* 献金者数の減少（高齢者世代の召天）

* 教会員数の減少

栃木地区

* 献金額は増加 2 教会、減少 6 教会、横ばいが 1 教会で、その理由は献金者が召されるなど固有の場合が多いものの献金運動が維持されている。

* 毎年協力いただいている方は固定化しており、なかなか新しい方に結び付きません。また礼拝出席者も減っています。

* 特になし (2 教会)

* ①共助の精神を持つこと、②ナルド運動が浸透している。

横ばい・増加の理由

* 一定しています

* 今まで、献金者がいなかったため

茨城地区

* 一定額を伝道所として捧げている為です。

* 当教会は袋を用いず壺に自主的に献金する方法をとっています。若い方々の関心がなくこれからの課題です。

* 教会会計からナルドの壺へ毎年一定額の支出がされているため。

* ナルド献金の袋による献金の他受付にナルドの壺を置いて毎週礼拝の度に献金を募っています。隣接のこども園の園庭でタケノコが取れるのでその販売の収益やその他農産物の売り上げをナルド献金としています。

埼玉地区

増額の理由：

* 教区所定の献金袋を個別に配布し、意識を高めている。

* 一つには、献金をささげる客員が 1 名増えたためです。また、もう一つには、会員の方でナルド献金の趣旨の重要性に気が付き、献金額を増やした方がいるためです。

* 第一主日にナルドと被災予備献金として、献金のときに、別の献金袋を用意して、献金をはじめました。

減額の理由：

* 少しずつ減っている。献金全体が減っているから。

* 高齢や病等により、礼拝に出席できない方が増えている。・求道者で高額な献金をされていた方が献金額を下げられた。

* 災害被災地支援などもあり、献金先が増えている。

横ばいの理由：

* 教会員数(礼拝出席者数)にほぼ変化がない。

* 教会員数の横ばい、もしくは減少。

* ゼロ円からの出発だったので、まだ増減が不安定です。

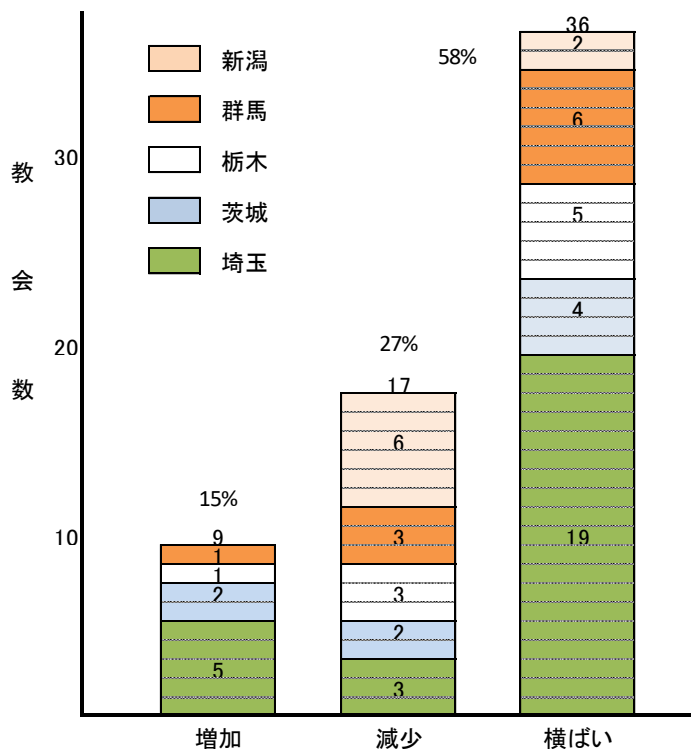
* 変化はありません。

5. 最近2, 3年でナルドの壺献金者数に変化がありますか

献金者数が増加した教会は9教会・15%、減少が17教会・27%、横ばいが最も多くて36教会・58%であった。地区別にみると埼玉が5教会で増加、減少は3教会で横ばいが19教会と大勢を占めている。新潟は増加0、減少6、横ばい2と減少基調となっている。

献金額と献金者数の減少理由はほぼ同じで、教会全体の動きと連動している。

ナルドアンケート回答 問4 献金者数推移



6. 献金者数の変化の理由を教えてください

新潟地区

*①礼拝出席者の減少、②ナルド献金だけでなく、献金する箇所が多い、③それぞれの家庭の経済的事情

* 献金者の減少（生活環境の変化、高齢化、経済力の低下）回答4と同じ

* 転会・召天・病気等による礼拝出席が少ない

* 献金者が召天されたため

* 関心がなくなっている

*①召天者1名、②忘れていた方1名、③新しく1名加わる

群馬地区

* 召される方もあり、転会して来た方が参加されたりです

* 礼拝出席、奉仕機会の減少などに伴うもの（勤務形態の不定期化）

* 教会員減少に引きずられた形

* 現住陪餐会員に献金をお願いした

* 現状のナルド献金の使途に不信感をいだく者もいる

* 特にありませんが新しく教会員になった方にはナルドの壺献金 Q&A とナルド通信を配ります。ナルド通信は全員に配ります

* 4の回答と同様（2教会）

栃木地区

* 礼拝出席者が少しずつ減っています。またおひとりずつ献金額を増やしていただくことは難しい

です。

- *ナルド通信を配る（3教会）
- *ナルド通信配布、礼拝後担当者が案内している
- *召された方がいます
- *献金者が増えました

茨城地区

- *ほぼ横ばいです（うちの伝道所では信徒からナルド献金を募っておらず通常会計の外部献金の中から一定額を捧げるようにしています。だから忘却しない努力です）。
- *教会員の高齢化、若い方の無関心。
- *礼拝出席者がふえているため。
- *4で回答したように教会員以外の方にも献金に加わって頂いているためです。

埼玉地区

人数増加の理由：

- *ゼロ人からの出発だったので。
- *牧師が父親を近隣のグループホームに呼び、礼拝に出席しているためです。

人数減少の理由：

- *教会員の高齢化。

人数横ばいの理由：

- *関心のある人がしている。
- *新たな献金者が居るが、高齢化、死亡等で減員もあるため。
- *転会や死亡。

7. ナルドの壺献金推進のために、工夫していることがあればお知らせください

ナルドの壺献金に対する意識の高さがうかがえる回答が多い。また、各教会がナルド献金に対する意識付けも行っており、新年度になると各教会員にナルド献金袋を配布したり、『ナルドの壺献金』に『関東教区教会互助献金です』といった説明を併記すれば新規の献金者が現れるのでは」といった教区への具体的な提案もあった。実際に受給されている教会からの声も届き、ナルド献金が教会の規模の違いを乗り越えて、関東教区全体が前向きに伝道に取り組むために用いられていると感じられる。

新潟地区

- *①ポスターの掲示、②「ナルド通信」「ナルドQ&A」を配布する。また受け付けの見やすい場所において、手に取れるようにしている
- *献金袋を受付に置き、皆にわかるようにしている。
- *①ポスターの掲示、②毎月の会計報告に合わせて添付し、ナルドの献金状況を報告
- *ポスターの掲示など
- *教会で貯金箱を用意し、受付に置いておく。
- *①献金が届かないときは声掛けなどに心掛けるが今のところ横ばい感謝です。②全員の方が献金する

には至っていません。

群馬地区

- * 新年度にすべての会員ボックスに「袋」を入れる
- * ①祈ること、②教区の互助連帯と献げる喜びを体験すること、③伝道と教会形成の充実
- * 牧師により広報活動
- * 現住陪餐会員の週報 Box に献金封筒を配布している。他の献金も含めて趣旨説明を配布した過去がある
- * 主日礼拝の報告の時に同献金の主旨（歴史的な経過を含む）を説明している。年2回位
- * 教会総会の資料に、毎年ナルド献金の報告を載せている

栃木地区

- * 送っていただいたチラシを配布したり、教会総会時に対外献金の報告の中で協力してくださった方を記しています。献金袋は通年、受付に置いてあります。
- * ナルド通信の配布、ポスター掲示
- * ①たまに説教の中で取り入れている、②ナルド通信の配布、③礼拝後の報告など周知していただけるようにしている
- * 継続していくことが最も大切な事
- * 各教会の担当者が継続して呼びかける
- * 一人々、一教会の働きを大切にす
- * お祈りをする
- * 一つ一つの教会の事を覚え祈っていく。

茨城地区

- * 毎年定額献金を捧げられるよう努めています。
- * 特にありませんが、支援を受けることなく、財政的な自立が実現した時には個人のナルド献金を進めたいと思います。
- * 受け付けの脇に壺を置いていますが、なかなか入れてもらえません。アピールするとその時は少し増えるのですが。
- * 出来ていませんこのアンケートなどを話し合いのきっかけ・工夫の案を出すきっかけに出来たらと思います。
- * お祈りカレンダーを全員に配ってそれぞれのご家庭でも祈って頂いています。
- * 各種献金項目にナルド献金を設けている。

埼玉地区

- * 献金袋を設けている。
- * 「ナルドの壺献金 Q&A」の①ナルドの壺献金ってなあにと②どうしてこの運動が関東教区から起こったの？の全文に、担当者からのお願いの言葉を印刷したものを毎年献金袋に入れている。
- * ナルドの壺ポスターを提示して現在の献金額がわかる様に記入しています。

- * 新年度開始時に、献金袋と共に封筒を配布しています。
- * 信徒の方にアピールしているが、強引な押しつけにならないように留意している。
- * 週報で案内・報告。
- * 教会と伝道所(...1 行目が途中から不明瞭でした...)そのために何が求められているか、今、自分たちができることから始め、少しずつ広げていく。
- * 毎月の主日礼拝の献金から 1/10 を捧げています。
- * 教会全体のわざとして考えている。
- * 礼拝説教の中で、教会の働きとしてナルドの壺献金をとりあげることがある。・月定献金・特別献金同様に、毎週週報で報告している。
- * 新入会員に献金の説明をし、献金袋を渡している。
- * コーナーを設置、つぼをアピール。
- * 1 年度の初めに「ナルド献金」と「百円献金」の PR のペーパーを週報棚に配布している。
2 受洗者や転入会者に説明し、協力をお願いしている。
- * 毎月、ナルドの壺献金の会計報告をしている。・ナルド通信を関係者全員に配布している。・加須教会がナルド献金をいただいている事を教会員に周知し、教区との連携を強めるようにしている。
- * 教会員の週報 BOX に、献金袋を入れ、総会で協力をお願いしています。
- * 全体に周知している。
- * これまでは、毎週受付に献金箱を置いて呼びかけるだけでしたが、この度、黄色いパンフレットにあった「ナルドそば」をまねて、「ナルドうどん」を月 1 回やってみよう、という相談をしています。
- * ナルド献金の袋を作って協力をお願いしている。
- * ナルド通信を配っています。

8. 今後、ナルドの壺献金運動を推進するために何が重要とお考えでしょうか

新潟地区

- * ナルド献金がどのように用いられているかを積極的にアピールする
- * 年に 1 度謝恩日献金をおささげする機会がありますが普段は献金していない方でも、この袋が配られるとおささげする方がいるため、これは続けられるとよいと思います。
- * 中条教会は献金者を確保、継続していただくためのアピール。ナルドに限らず、教会をどう支えていくかが課題
- * 教会員に対してさらに PR していく
- * 口答で説明する機会を増やす
- * 担当者の呼びかけなど
- * 担当者の報告と研修会など
- * 献金（協力金）としての大切さを知ってもらうよう心がけたい

群馬地区

- * 各教会員が「便り」を読み、「あなた方も行ってそのようにしなさい」を心に留める事かと思います
- * 教団、教区に存在する意義の自覚と愛の業の共感、共有と宣教協力の成果を実感すること
- * 今後も趣旨説明と献金封筒の配布をしていく

- * 原点回帰、牧師謝儀互助の為に全額を支出する、それ以外の互助をナルド献金から積み立てることは望ましくない
- * 献金先の様子 まだまだ大変な援助を必要としている教会等をアピールしてほしい
- * 元々大盤振る舞いできないのだから、一番重点的に用途を縛り互助すべきだと思う。(年金互助なり退職金互助なり)(アレにもコレにもと配分すると、主旨が希釈される)
- * 使われ方についての情報の発信。難しいと思うが、「顔の見える支援」になると協力者は増えるのではないか

栃木地区

- * 機会をとらえて地道に啓蒙していくしかないと考えています
- * 受給教会が増えている現状を理解してもらうようにする
- * 聖書に基づいて、弱い教会を助け、主によってつながる働きを大切にする。

茨城地区

- * 教会員の高齢化によって献金額が減少する傾向は否めません。献金者にとってどの様に用いられているかは関心事です。ナルド通信でも具体的にその辺りを報告したらいいのでは？
- * アピールする事。
- * もう少し皆さんに重要性をお知らせしなければと思います。
- * 少額であっても教区の身の回りの多くの教会がナルドの受給を受け、自分たちの身近に働く活動として次の献金に携わる事。
- * 関東教区の「協力伝道」の業ですから、教会と教会の結びつきを感じる事の出来るようにする事が重要だと思います。また関東教区には多様な宣教の現場がありますから、その多様さを認め合い互いを尊重する教区になって欲しいと思います。
- * PR 活動

埼玉地区

- * 信徒に重要性を理解してもらう。
- * 各教会を覚えて祈り合うこと。「教区お祈りカレンダー」の発行は有難いです。
- * 従来のようにその用い方、その結果報告がその関心を高めるに役立つと思います。
- * 通常献金だけでも厳しいなか、より以上の負担を求めるのは難しい。
- * 礼拝出席者数の増加。
- * 教会や伝道所間の助け合いと一致の自覚と、それを具体的に実行するための行動(ささやかでも)か。
- * 集金がわずらわしい。
- * 献金の目的をもっと知らせる。
- * II コリント 8 章、9 章からの説教。
- * 教会員への呼びかけが重要。
- * 関東教区の人口年齢構成を把握して、持続可能な教区運営を生み出すこと。
- * 受給教会からの報告。
- * まだよく知らない教会に伝え、理解してもらい、献金してもらう。

- * 目的を（だれにでも）わかりやすく表示し、「じゃあ献金しよう」という気持ちになってもらえるようにすること。
- * 教会員が減ってゆく状況で、もっとこれから受けなければならない教会がふえてゆくと感じます。

II ナルドの壺献金の用いられ方について

9. ナルドの壺献金がどのように用いられているか、ご存知ですか

ナルド献金の使われ方については、90%以上の教会で知っているという回答しており、回答欄に牧師謝儀補助など具体的な対応を記している教会が多い。但し献金には熱心だが、使われ方に無関心との感想も寄せられており、質問の仕方が抽象的で、幾つの教会を支援しているかを知っているかなど具体的な問いかけの方がよかったのではないかと感じます。

新潟地区

- * 以下の回答にあるように、個別理由を挙げたり、受給教会であったので、よく理解しているなど、理解が深いことが判る
- * ①謝儀互助、②退職金互助、③緊急互助、④ナルド基金、⑤教団年金掛金互助
- * だいたいわかります。
- * はい。過去に援助を受けていた
- * 牧師への謝儀をお支払いするのが困難な教会へ謝儀互助として用いられていると理解している
- * だいたい理解していると思います。
- * よくわかっていません
- * 黄色の「ナルド通信」はその点とても良いと思います。（楽しみにしている一人です）

群馬地区

- * ナルド通信を読んでいるので、教会互助など概ね知っているが、使われ方に無関心との指摘もある。

栃木地区

- * 知っています（5 教会）
- * だいたいわかる
- * よく知っています
- * 牧師・会計が担当し、把握している

茨城地区

- * 教職は知っている。ここ 2 年で新たに礼拝に加わった人はほぼ知りません。
- * 教区総会の議案報告書によって知っています。

埼玉地区

- * 「はい」と受け止められる答えが 20 教会。明確な「いいえ」の教会はなかったが、未回答の教会が 2 教会あった。

10. ナルドの壺献金に関して要望したいことがあればお知らせください

新潟地区

- * 具体的に見える報告をお願いします
- * すいません。関心がないという訳ではありませんが今のところ宣教部の方の使い方で良いと思っています。

群馬地区

- * 協力していない教会・教会員もいるので、奥羽教区などのように教師謝儀から等しく負担していただくのもよいかもしれない
- * 1日10円を15円とする。(担当者案、1ヶ月約500円)
- * 現在ナルド受給教会ではないが、5年後・10年後にはその可能性が高くなる。いざその時が来て周囲を見たら受けたい教会ばかりになっていて・・・となるような漠たる不安あり。各個教会主義で教会が持ちこたえている間は他教会に関心を向ける必要性はあまりなかったが、共生にとって最大のネックは無関心。ナルド献金を考えることは教会相互の連帯を考えることと同じ、との考えは良く分かる。
- * 重複しますが教区内の緊急互助、退職金互助、確かに必要と感じます。しかし、今現場で牧会している牧師・家族を覚え・支えていく姿勢がナルド献金ではないでしょうか。教会員の多くの方々自分たちの献金が「今」ご用に使われていることを思い、祈り献げています。そのことを考慮していただきたいと思います。
- * 一人一人の献金者に宣教活動に参加しているのだとアピールしてほしい
- * ①教区でこれだけの献金を集めていることは、大変意義あることだと思う。この献金によって、宣教の現場が支えられていることをアピールし続けたい。
②献金者の意識と信頼を保つことが肝要と思う。公平で、ある程度の透明性があり、納得を共有できる支援のシステムを絶えず模索し続けたい
- * 謝儀互助に特化して、互助する教会を増やした方が良いと思う。

栃木地区

- * ①受給教会として互助額の基準に月定献金も考慮してほしい、②受給教会の礼拝に参加し、もっと教会を知っていただきたい。
- * ナルドの働きがもっと盛んになっていくように声掛けし、継続できるように工夫する。

茨城地区

- * 信徒の志で始まったこの献金が最初の意図を逸脱しませんように。(頭打ちというけれどもそれもアリかなあ…)。
- * これからも続けて頂きたいと思います。
- * 簡単でもいいので受給者(書いても良いという教会)の喜びを2~4件程度ポスター形式にして数年単位で掲載できると皆がナルド運動に構えることなく自然に身近に関わる事が出来るかと思っています。
- * 教区内の全ての教会が献金に加わってほしいと願います。

埼玉地区

- * ナルドの現在献金額が教区ホームページなどで確認できるといいですね。(月一回でも)(教会ポスタ

一に最新状況を入れられます)。

- * 将来につながるテーマを探しだしてほしい。先細りを補うだけでは光明がない。
- * 以前私どもの親教会の牧師でありました山下万里先生は「伝道に遠慮はいらない」と言って励ましてくださいました。あれから約 15 年なかなか教会員がふえません。民間企業でしたらとうに援助金は打ち切られていたでしょうが関東教区は伝道のフロントにある私ども小さな群れをナルドの壺献金でずっと支えて下さっております。少しでも前を向いて伝道に取り組む事ができる。これがナルドの壺献金を受けている私ども伝道所の励みです。
- * もう少しお献げできるよう努力してまいります。
- * 年収の高い牧師の謝儀の何%かをナルドに献金してもらうよう働きかけたらどうか。
- * ナルドの壺献金を申請していない小教会・伝道所にも、年 1 万円ぐらい支援していただきたい。そのほうが、献げる方が多くの小さい教会・伝道所を支えるという気持ちになると思います。
- * 信徒の宣教部委員が地区内、教区内を問安下さり、礼拝の報告で PR などしていただけると良いと思います。ぜひ、当教会に PR に来て下さい。
- * ナルドの壺による互助に関して、受給されることをマイナスに捉えるような意識が払拭されることを願っています。また、受給される教会は教会として整っていない場合もあり、教師も教区の一員として成長していない場合があります。教会と教師の成長のために何かヒントがあるとありがたいと思っています。
- * 最近、地区内の教師家族の入院で多額の医療費の発生が予期されたが、具体的な助けがなく、地区内の隠退教師(複数)の発案で、有志による医療費支援を行いました。十分な額ではありませんでした。教区内の教師家庭の緊急の必要について、愛のこもった対応をお願いできれば幸いです。
- * 牧師の謝儀支援の強化。ギリギリでは苦しい。
- * 「ナルドの壺献金」という名称が分りにくいという意見があります。(新しい人に対して)「関東教区教会互助献金」と言った方が名が内容を表しているの、併記する必要を感じます・Q&A リーフレットは、わかりやすいですが、一般信徒向けにもっと文字数が少ない簡潔なものがあればいいと思います。

Ⅲ 宣教協力について

11. 宣教部では、他の教会・伝道所のために賜物を活用するための「宣教バンクの取り組みを考えていますが、どう思いますか。

宣教バンクについては、まだ具体的な説明が周知徹底していない段階での質問のため、受け止め方が多様ようだ。それでも好意的にその主旨に賛同している教会が多く意見も多い。埼玉地区のように宣教バンクのひな型のような活動が動き出している地区もあり、その拡大版と理解した教会もある。宣教バンクの具体像をイメージし難いとの指摘があるなど、意見が幅広く分かれている。実際に運用が始まると窓口業務の担当は大変かなと懸念する声や、運用基準が重要でその改定にも留意が必要になるのでは、との意見もあった。奏楽者派遣などの意見が多いが、移動を考慮すると教区というより地区ごとの連携の中で具体策を考える方が現実的では、との意見も出ている。

新潟地区

- * 考え方は良いと思いますが、活用する場合、負担（お金、労力）を伴うのであれば利用できないと思う

*興味があるので具体的に知りたい。礼拝を守ることが困難な教会へ近くの教会を貸すということは良いことだと思うが、高齢化が進む中、近くの教会が距離があることと動ける人が限られてくる。

*とても良いと思います

群馬地区

*良い事とおもいます。礼拝で奏楽者をしています。今は健康を保っています。礼拝での奏楽者の役割を深く知りたく思います。奏楽者無しで礼拝を献げている教会のある事を聞きますし、時々、奏楽者が居なくても「ヒムプレーヤー」があるからと言う声を聞く事があります。

*マイクや週報作成など、これまでも近隣教会の信徒の方の協力を得てきたので、各個教会で工夫はしてきました

*賛成です

*実現可能は具体策を挙げつつ、慎重に始めたらどうでしょう。

*良いと思います

*わかりません、協力される側の考えを知りたいです

*注意は分かりますが、しかるべき運用基準を発足時から途中で変えないことが大事。

*基本的には賛成だが、自薦にするのか、他薦にするのか、情報のアップデートが出来るのか等、課題はあると思う

*宣教バンクの内容がまだ不明なので、答えにくいとの教会あり

栃木地区

*コロナ禍の状況を踏まえて財政的にも、それぞれの教会の礼拝の持続的支援に必要な賜物が備えられる取り組みを提供してほしい。

*各地区、各教会が利用出来るサービスを具体的に教えてください。

*①計画として面白いと思います。様々なジャンルの方がいると良いです。②教区を通じて費用など提示し、経済的に厳しい教会にも利用できるように考慮してほしい。

*色々な互助活動の支援（経済的、人的）

*良い計画だと思います。

*コロナ禍における状況を踏まえた、環境の整備を整えてほしい。

*何事もお祈りをして、良い方法が与えられるように

*大きな教会と小さい教会が協力して、賜物を活かし合う相互関係が築けるようなことがあればうれしいです。

茨城地区

*良い事だと思います。

*とても良い考えかと思えます。派遣費用については教区支援（伝道資金の教会協力費より支出）などの工夫があればなお賜物を用いやすいかと思えます。

*良い取り組みであると考えます。但しどの教会も良くも悪くも現状に慣れてしまっており、宣教の為に動けないように感じられます。

*「協力」はお金だけではないし礼拝支援とか伝道支援などの協力があつてこそ献金も伸びると思います。是非進めていってほしいです。

埼玉地区

*良いと思う。

*良い取り組みだと思いますが、窓口の働きは大変かと・・・。

*賛成です。

*それぞれの賜物が生かされることはとても良いアイデアと思います。

*発想は素晴らしいが実現化は難しい。お礼、交通の問題。ヒムプレイヤーでもできる。

*大きな教会の教会員が伝道所に宣教協力に出て来てくださる事を感謝します。小さな教会・伝道所の会員になっていただきたいです。属する教会より近くに伝道所がある場合ですが...

*必要と思います。

*「宣教バンク」の具体的な働きがわからない。なので、わからない。

*「宣教バンク」構想と同じことを埼玉地区では既に行っており、加須教会はその働きを受けています。

その際、問題となるのは、人員の確保、現地に赴くための交通手段、日程の調整、などかなりの条件をクリアしなければなりません。また「宣教バンク」の働きがあることを常に周知しないと、メンバーは限られてきます。さらに賜物の種別があるため、奉仕できる方が限られるという現実があります。奉仕者の年齢の問題も起こります。教区の広がりの中では実現はかなり難しいのではないのでしょうか。むしろ、地区ごとの連携の中で具体策を考える方が現実的だと思います(加須教会)。

*進めてくださり、実績ができると幸いですね。

*申し訳ない事ですが、現在のところ、自教会の事で手いっぱい状態です。

*宣教が進むために、良い試みだと思います。

*宣教バンクということがよくわかりません。

12. どのような賜物があればいいと思いますか。或いはどのような賜物を提供できるでしょうか

「宣教バンク」に関しては、まだ周知が十分ではないと感じられる側面がある。各地区ではなく関東教区という広がりの中かでどう実際に運用できるのか、といった問いかけが多く、運用の実績が積み上げられていかないと、提供する側も利用する側もイメージしにくいようだ。

以下の意見が多かった。

*礼拝関連：教会やCSの説教、奏楽、賛美指導、音響アドバイス、CS キャンプレクリーダー

*教会形成関連：PC 操作指導、HP 作成支援、案内チラシ、IT に詳しい人の派遣、

*会堂の維持管理関連：植木の剪定・植物伐採、草むしり、長椅子、週報棚

新潟地区

*①バザーの協力（販売できるものがあれば協力できる）、②クリスマスなどの特別な礼拝を合同にする、③世界祈祷日の開催教会（会場のみ）を順番にする。（負担が集中しないように手分けして準備を担う）

*宣教行事を企画できる人の賜物があれば良い

*アンケートにもありました様に礼拝の奏楽のようなものは、理解できましたし、素敵なことだと思います

ます。

群馬地区

- *数年前に、群馬地区内でも、奏楽者バンク？を作り、派遣するシステムを作る話を聞いていました。10年以上地区総会には行っていませんので不明です。
- *ホームページ作成など
- *植木剪定などの人材派遣（登録者）
- *会堂の長椅子、週報棚、リードオルガン等提供可
- *教会案内の作成や配布
- *わかりません、協力される側の考えを知りたいです
- *・CS キャンプのレクリエーションリーダー（楽しいゲームの仕切り方）
 - ・将来の教会に必要な IT 技術の得意な人
 - ・カルトの現状に詳しい人

栃木地区

- *①音楽など専門分野の方、②面白い人材。
- *①若い年代のための信徒講座、②若い人のため座談会
- *奏楽者など音楽の活動をしている方
- *ネット配信する環境をセッティングでき、教えられる方。
- *①ゴスペルを指導できる方、②ライブ配信等を教えられる方

茨城地区

- *一昨年礼拝説教の御用を頼まれた時に「説教＋春風ねばりさんの腹話術上演」を行いました。「バザーでよく売れるクッキー教室」講師など。
- *①礼拝音楽の指導をして下さる方がおられると良い。数回の指導
 - ②講師として専門的な知識を持っておられる方がいると良い。現代の課題（温暖化問題など）に適切な解説を加えて頂けると良い。
- *草取りなど環境整備。
- *あれば良いと思う賜物：子育て世代を招くことが出来る子育て世代・ゴスペルによって青年に伝道できる賜物　提供できる賜物：こども・青年世代に関する賜物にぎやかさ。
- **礼拝の奏楽者の派遣*教会案内などの作成　*ホームページ作成*教会案内等の作成　*ホームページ作成　*SNS を活用した伝道。
- *勝田教会ではゴスペルクワイアによる伝道活動を行っている。

埼玉地区

- *教会やCSの説教・司会・奏楽。PCの操作、書類作成、ホームページ作成など。
- ・看板書き、教会内外の大工仕事、教会の庭の草むしり（手の足りないところ）、教会を整えることもお見えになった方（新来会者の為）が心地よい。
- *CSで活用できる人形劇、影絵といったイベント。

- *案内チラシの作成のお手伝い、伝道集会・ミニコンサートの会場として活用。
- *生垣の刈込とか庭の草刈りのような労働...
- *ホームページ作成。音響設備アドヴァイスなど。
- *パソコンのスキル、ちらしの作成（ワード）。結果的に自分で勉強する他はない。
- *礼拝に出席して下さることが一番の伝道協力であって、特別な賜物は要りません。埼玉地区の教会音楽委員会に年一回、礼拝奏樂の奉仕をお願いしています。謝礼と交通費を考えると、それ以上は増やせません。HPのよりよい管理の援助をお願いしたいです。宣教協力の取り組みを感謝いたします。良き助言をお願いいたします。
- *パソコン講習会とか？（ハード・ソフト両面）、A3プリンター・スキャナー活用法、チラシ作成。
- *あれば良いと思うもの：礼拝の奏樂、自動車の運転、パソコンの指導・メンテナンス、植物の伐採・片付け・提供できるもの：説教奉仕（牧師）健康上の理由で遠距離の場合は休息が必要です。
- *現在、賜物の提供は不可です。すみません。
- *小規模教会で求めているものはとくに奏樂者、賛美指導者とHPインターネット関係に精通している人だと思います。このような人が教会にいたり、派遣(定期的)されてくると助かります。
- *或る教会でいらなかったものが、他の教会でほしいものであったりすることがあります。情報があつたらいいなと思っています。
- *伝道集会、コンサートなどのチラシの作成。

地区ごとのまとめ（2021年度宣教部委員会でまとめた感想）

新潟地区（担当：大下正人委員）

新潟地区から8教会の回答があり、8件中7件に担当者を有しています。その経験も6年前後と長く担当して下さっている。その状況として献金する人数は減っているが、献金額を維持している等、様々な意見が挙げられました。その献金を維持するための声掛けやポスター掲示等それぞれの教会で協力いただいで感謝の思いが溢れました。また、ナルド献金の用いられ方についてよく理解して下さっています。また、宣教部を信頼しているのでこのままで続けていただければと意見もありました。宣教協力、宣教バンクについて、興味があるので具体的に知りたいなどの意見がありました。

群馬地区（担当：伊賀滋委員）

群馬地区は21教会のうち、10教会から回答が寄せられ、そのすべての教会にナルド担当者がいるとの事で、関心の高さが窺える。担当年数はナルド発足当初からや27年、18年とベテランが揃い、結果として平均担当年数が11年弱と長いのが特徴。ナルド献金者数は横ばい基調だが、献金額は減少傾向の印象となっている。このために担当者はナルド運動推進のために祈りや連帯の喜びを自覚する活動などを工夫している。一方で、活動の意義を覚えつつも支出の範囲を限定して絞り込み、主旨を明確にすることと、顔の見える支援となるよう留意されたいとの要望もあり、肝に銘じたい。ナルド献金の使われ方については「互助活動として知っている」との回答なので、主旨は伝わっていると考えられる。もう少し突っ込んだ回答を期待したが、一般論で終わった印象だった。

ナルド献金は信徒運動だが、奥羽教区のように教会自身が負担するアイデアもあるのではないかとの具体的な事例紹介もあり、検討の余地を感じた。

宣教バンクについては肯定的な意見が多い。但し運用に当たって基準と関連情報のアップデートが重

要であろうと考えを示した教会もあった。宣教バンクの対象はまず奏楽者が挙げられているが植木の剪定まで幅広く、また具体的なものはよくわからないとの回答も2教会から出ており、出来るところから始めて実績を積み重ねることが近道なのかと感じさせられた。

栃木地区（担当：大下正人委員）

栃木地区は、9教会から回答がありました。9件中8人の担当者がいると報告がありました。ある教会では、ナルド献金が始まった当初から担当しておられた方もおられ、そして今なお現在担当しておられます。献金額は、減っている教会もあれば、増えている教会、横ばいの教会それぞれありますが、その内訳は、献金者が召されたなど、理由はそれぞれですが、献金運動が維持されているという報告がありました。また、ナルド献金の用いられ方については、良く知っているというご意見が多数ありました。また、宣教協力についても、興味があるという意見のほかにもどんなことをするのか具体的に教えてほしいと意見がありました。

茨城地区（担当：柴野久江委員）

茨城地区は21教会中8教会からの回答があり回答率は38%でした。回答のあった8教会中ナルド担当者がいるのが5教会で、献金額は横ばいが6教会、増加・減少が其々1教会でした。今回のアンケート調査では茨城地区の献金額が増加していることも分かり、アンケート回答だけでは判断出来ない側面があると感じました。ナルド献金が増加している教会は会員数の増加や付属こども園の協力があり、一方減少している教会は高齢化や無関心、教勢の減少が挙げられ、教会自体が抱える問題が映し出されていると感じました。すべての回答でナルド献金運動が互助運動であることが回答者には認識されていますが、広く運動を推進するためには受給状況を周知徹底することが一番、という意見が多くありました。ナルド運動に対する要望として、受給教会の喜ぶ姿をポスター形式でアピールできたら、との提案がありました。

宣教バンクについては良い働きと捉える教会が多くありました。宣教バンクの具体案として、奏楽、青年伝道、ゴスペル、HP作成、SNS活用の伝道や草取りなど多岐に亘るアイデアが提示され、期待が高いと思われました。

埼玉地区（担当：疋田義也委員）

埼玉地区では、59教会中27会からナルドアンケートへの回答がありました。回答を見てみると、回答をもらった27教会のうち21教会ではナルドの壺献金担当者がいて、その半数が5年以上同じ方が担当されているとのことでした。また、回答中22教会では献金額がほぼ横ばいか増えているとのこと、残りの5教会においても減額の理由は、「ご高齢や病気により礼拝出席や献金全体が減っている為」、「災害支援により献金先が増えた」、既に献金をいただいている教会において、ナルドの壺献金に対する意識が弱まっているということではないようです。むしろ、ナルドの献金袋を用いたり、Q&Aの冊子を配ったり、食事を提供しながら献金を募ったり、現在の献金額をわかる様にしたり、「教区お祈りカレンダー」によって祈りを合わせたりと、ナルドの壺献金の重要性を理解し、意識を高める取り組みを各教会が実施しています。また、ナルド献金の用いられ方については、「信徒全員が理解しているかは分からない」という教会や、具体的にどのように用いられているかわからないという回答もあり、ナルドの壺献金の意義を知ってもらうための積極的な働きかけの必要性が見えてきたと思います。

ナルド献金に対する具体的な要望等としては、受給教会からの「私ども小さな群れをナルドの壺献金でずっと支えて下さっております。少しでも前を向いて伝道に取り組む事ができる」といった感謝の言葉がありました。また、「ナルド受給をマイナスに捉える意識が払拭されることを願う。また、それと同時に、受給している教会と教師の成長のために具体的なサポートも必要である」、「ナルドの現在献金額が教区ホームページで確認できるようにしてほしい」、「教会間の教師謝儀額の違いがあるので、余裕のある教師に積極的なナルド献金を働きかけてほしい」、「小規模の教会や伝道所が謝儀互助を申請していても、年1万円ほどの支援を受けられるようにしてほしい。その方が、それらの小規模の教会・伝道所も含めて支えているという気持ちになる」、「宣教部委員の方に地区・教区内を問安していただき、ナルドの壺献金をPRしてほしい」、「『ナルドの壺献金』という名称がわかりにくい、新しい献金者を募る際には『関東教区教会互助献金』といった名の方が内容を表しているのので、『ナルドの壺』に併記する必要を感じる。Q&A 冊子も一般信徒向けにもっと文字数の少ない、簡素なものが欲しい」、「教師謝儀支援の強化。ギリギリでは厳しい」、「教区内の教師家庭の緊急の必要(入院等による多額の医療費など)について(夫婦や親子間ではなくとも、生計を共にする同世帯の場合)、愛のこもった対応をお願いできれば」といったものがありました。

「宣教バンク」については、教会間の温度差が顕著でした。「良いと思う。賛成だ」、「宣教が進むために、良い試みだ」、「進めてくださり、実績ができるといい」という声があった一方、「良い取り組みだが、窓口の働きが大変なのでは」、「発想はすばらしいが実現化は難しい。交通費の問題などがある。」、「(何か賜物を共有するというよりも)大きな教会の教会員が、もし小規模の教会や伝道所の礼拝に出席するかたちで宣教協力してほしい」、「『宣教バンク』の具体的な働きがわからない」、「宣教バンク構想と同じことを埼玉地区ではすでに行っている。地区内ではわかるが、教区単位となると、交通手段、日程の調整などかなりの条件をクリアしなければならない。宣教バンクの周知の徹底をしないと、奉仕者メンバーの確保、奉仕者の年齢の問題がある。地区ごとの連携の中で、具体策を考える方が現実的だと思う」という意見も多かったです。

最後に「宣教バンク」へ提供できる賜物について、これらはすべて伝道を進めることに関わることですが、「教会やCSの説教」、「司会」、「奏楽」、「賛美指導」、「音響アドバイス」、「看板書き」、「CSで活用できる人形劇・影絵といったイベント」など礼拝実施に関わるものや、「教会の庭の除草作業」、「大工仕事」、「PC・インターネット・スキャナー活用法」など教会の設備営繕について、また「ホームページ作成・管理」、「ちらしの作成」など広報に関わるものでした。ただ、一つ目のグループである礼拝実施に関わる賜物提供については、「謝礼と交通費を考えるとこれ以上お願いしにくい」、「遠方への長距離の説教奉仕は健康上、スケジュールに余裕が必要」といった意見もありました。